

**10** 田上パル『タジタジ道中膝栗毛』上演

Oct. 田上パルの主宰・田上豊が養父市に拠点を移して初の公演は、青年団の村井まどかによる一人芝居。ちょっと変わったバスガイドが“タジマ”の名所を案内する観光バスツアー型演劇で好評を博しました。

**演劇人コンクール2021開催**

「地域を越え、国際的に活躍できる演出家の発掘と養成」をコンセプトにした演劇人コンクール。開催地を江原河畔劇場に移して二度目の開催。最優秀賞は該当なしでしたが、個性あふれる上演が繰り上げられました。

**11** BRDG『Light of the City』上演

Nov. 京都を拠点に活動するBRDG。2017年から、フィリピン教育演劇協会（PETA）の俳優・演出家であるイアン・セガツァとの共同制作を開始。今作はその第3弾。江原河畔劇場の2階スタジオで上演されました。

**豊岡映画センター定期上映会vol.4**

豊岡在住ピアニスト・中嶋由紀さんのピアノ伴奏とともに、サイレント映画の名作『ロイドの要人無用』『アッシャー家の末裔』を上映しました。定期的に開催される映画上映を楽しみにされる方が増えています。

**青年団『サンタクロース会議』学校公演**

毎年豊岡市内の全小学2年生を対象に上演している参加型演劇『サンタクロース会議』。子どもたちはみんな真剣に会議に参加してくれます。家に帰って家族とクリスマスやサンタクロースについて話し合いました、という感想をたくさんいただきました。

**12** ホエイ『ふすまとぐち』上演

Dec. 作・演出の山田百次の代表作。強烈な嫁いびりから「とある場所」に引きこもる桜子を中心に、嫁、姑、小姑、さまざまな業がうずまく様を描き出します。全編津軽弁で、一気に劇世界へ引きずりこまれました。

**北摂三田高校訪問研修受け入れ**

北摂三田高校1年生40名が、地域課題の解決や地方都市の地域活性化の取り組みの研究のためにやってきました。演劇的手法を用いたコミュニケーションワークショップと、高校生による移住してきた俳優や劇場スタッフへのインタビューを行いました。

**情熱のフラミンゴ『ちょっとまって』上演**

演劇作家の島村和秀が試作を重ね作り上げた作品。とある男の死体をめぐって絡み合う女2人の複雑な関係が描かれ、演劇スタジオに立ち上げられた舞台上で白熱した上演が行われました。

**1** たじま児童劇団『十五少年・少女漂流記』上演

Jan. 平田オリザが27年ぶりに中高生に書き下ろした新作を、たじま児童劇団の中高生メンバー15名が熱演。追加公演も含め全ステージ満席となり、等身大で演じる中高生の姿は大きな感動を生みました。

**2** 青年団『S高原から』上演

Feb. 1991年初演の名作を8年ぶりに上演しました。高原のサナトリウムを舞台に、静かな日常のさりげない会話の中にも確実に存在する死。平田オリザが新たに見つめ直す「生と死」。雪に包まれた劇場で上演されました。



2021年度の後半は、青年団に加え、若手の劇団による上演やたじま児童劇団の上演など、多彩なラインナップをお届けすることができました。劇場を利用したアーティストからは、豊岡の環境の素晴らしさを実感し、充実のクリエイションを行うことができたという声を多くいただきました。

今回の通信では、そんな江原河畔劇場での創作・上演の様子をお届けします。1月のたじま児童劇団公演と、2月の青年団公演のレポートです。雪が多く寒い冬でしたが、劇場の中は熱量高く創作が行われました。

冬の江原河畔劇場



この冬、豊岡では近年珍しいほどの積雪があり、劇場前の広い駐車場の雪かきは毎朝の日課となりました。写真は『S高原から』で西岡役を演じた青年団の俳優 吉田庸が江原河畔劇場の楽屋から撮影した円山川です。春夏秋冬、一年を通じてこの円山川の眺めは私たちに癒し、励ましてくれるように感じられます。



『S高原から』の本番を終えて劇場を出る青年団の俳優たち。雪が舞う中それぞれの宿舍へ。

# たじま児童劇団 旗揚げ公演 『十五少年・少女漂流記』現場レポート



たじま児童劇団 旗揚げ公演  
『十五少年・少女漂流記』  
作・演出：平田オリザ  
2022年1月9日（日）～10日（祝）  
出演：たじま児童劇団中高生の部

11月半ばに台本が半分書きあがり、メンバーに配られました。冬休みの本稽古前には台本が完成。稽古に先立って、青年団の舞台美術家の杉山至と芸術文化観光専門職大学の学生によるプランで、洞窟をイメージした舞台美術が組み立てられました。

そして、いよいよ12月25日に稽古がスタートしました。



稽古初日、緊張の面持ちのメンバー

稽古初日、緊張の面持ちで参加したメンバーたち。楽屋や舞台袖など、危険がないように劇場全体のツアーを行って、いざ稽古開始です。感染症対策として口元の見えるマスクを着けて稽古に臨みました。緊張しながらも、舞台上では稽古がどんどん進んでいきます。みんなのやる気に火がついた稽古初日となりました。

しかし、翌26日と27日は、大雪警報が発令され稽古が中止に。各自、自宅でセリフ覚えをがんばるように指示を受け、我慢の二日間となりました。



チラシイラストはメンバーの田上聖さん画

28日、ようやく稽古再開です。自分の出番のないシーンのときは別の部屋で自主練習。足りない役には代役を立て、全員で協力して取り組みました。歌のシーンは歌手のやびきNandeeあきこさんにご指導いただきました。



ロビーのピアノ前で歌の練習

29日は年内最後の稽古です。この日は、中止となった二日間の分を取り戻すべく、稽古時間を2時間半延長。午前中は青年団演出部の田上豊が中心となって、これまで稽古したシーンを繰り返し練習。午後はまたオリザさんの演出でシーンをブラッシュアップさせていきます。

年末年始のお休みは5日間。稽古中に付け足されたセリフも含め、台本を完全に覚えてくるよう指示が出ました。



みんなでラジオ体操！

1月4日、新年が明けて最初の稽古。1階の劇場と2階のスタジオで稽古を重ねるメンバーたち。いつの間にかメンバー同士が自然と仲良くなって、作品と共に関係性が育っていく様子が見られました。

5日も稽古稽古、とにかく稽古。そんな中でも、休憩時間には冬休みの課題を先輩が教えるという場面も。

6日は通し稽古を実施。最初から最後までシーンをつなぐことで課題を見つけたメンバーたち。

7日は中学校の始業式があるため、稽古は午後からスタート。中学生のメンバーは学校を終えてすぐに駆けつけて

くれました。保護者の皆さんの送迎のご協力に感謝です。

8日、公開ゲネプロを行いました。ギリギリまでセリフを追加したり調整したりするオリザさんの演出にもメンバーたちはだんだん慣れてきたのか対応力が上がってきました。新聞記者さんからの取材にも、しっかりと自分の言葉で受け答える姿が頼もしかったです。



オリザさんの演出を受けるメンバー

そして9日。公演初日です。開演前、オリザさんからメンバー全員に声かけられます。それぞれ緊張とワクワクが入り混じった様子のメンバーたち。そして、満員御礼で幕が開きました。練習通りにやれた！と満足気なメンバーは、2ステージを無事に終え、スタッフも胸を撫で下ろしました。

10日、最終日です。天候にも恵まれ、二日目も満員御礼。本番はあっという間に終わってしまいましたが、冬休みをほほ丸ごと捧げて演劇を創り上げたメンバーの表情は充実感と達成感に満ちていました。

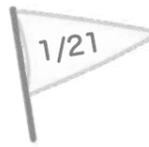
公演は新聞各社に取り上げられ、反響を呼びました。たじま児童劇団の公演は来年度も実施します。是非ご注目ください！



開演直前の舞台写真©Daichi Asakura

## ●『S 高原から』の制作と上演が行われました！

2月19日～27日江原河畔劇場で上演された青年団第92回公演『S 高原から』の様子を、豊岡在住で『S 高原から』で入院患者・貴美子役を演じた山田遥野がレポートします！

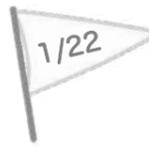


本隊豊岡入り 但馬空港やJRの駅から、PCR検査を済ませた出演者・スタッフが豊岡入りしました。やってきた劇団員は、まず、これから約1ヶ月滞在する宿舎を整え、稽古の準備を始めます。この日は大雪だったので劇場の貸し出し用スノーブーツが飛ぶように売れました。

日高倉庫へ その日のうちに、舞台美術・衣裳・小道具を保管している日高倉庫へ。本作は再演のため、過去の上演で使われた装置や小道具を取りに行きました。舞台装置で印象的な真っ赤なソファも以前の公演で使った装置ですが、この前日までは劇場ロビーに設置していたので、座ったことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。



1991年の初演から使われている小道具の怪獣スリッパ



稽古開始 稽古のはじめに、オリザさんから作品についての話をいくつか聞きました。作品が書かれた90年代初頭の日本や世界のこと、劇団のヨーロッパツアーのこと、東京で上演された『ニセS 高原から』シリーズやフランスでの上演のこと、また、オリザさんからこの作品のモチーフになった小説『風立ちぬ』と『魔の山』を貸してもらいました。稽古の合間に貸し借りしながら読みました。



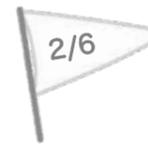
タタキ&仕込み 雑誌や本、ランプやオブジェが飾られている舞台後方の大きな棚は、小さなボックスを但馬の山の稜線のイメージで配置しているそうです。仕込みの合間に炊き出し班が作ってくれたのは具沢山の豚汁や生姜入りのホットな美味しいカレー。窓を向いて個食に努めました。窓の外にはしんと雪が積もっています。



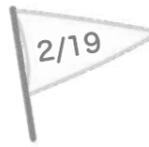
円山川の雪景色を眺めながらご飯を食べる俳優たち



©igaki photo studio



第一回通し稽古 8年ぶりの再演で、キャストが一新された今回の『S 高原から』。たくさん稽古をしました。自主稽古でもタイムを計りながら何度もシーンを繰り返し、通し稽古は全部で5回行いました。過去に貴美子役を演じたたむらみずほさんが通し稽古を観に来てくれて、稽古の励みになりました。今回は衣裳も一新。衣裳が届くたびに舞台がどんどん華やかになっていきます。初夏のサナトリウムという設定なので、どの役も爽やかな装いです。



初日 兵庫県でもまん延防止重点措置がはじまり、豊岡の街でも日に日に緊張が増していく中、できる限りの対策をとった上で初日の幕が上がりました。こうした状況下で劇場にいらして下さったお客様に、改めて感謝した初日でした。公演期間中、カーテンコールやご回答いただいたアンケートなど様々な場面で但馬のお客様のあたたかさに触れました。



©igaki photo studio



豊岡公演千穂案&バラシ 終演後、バラシた舞台をパッキングして倉庫に収納しました。豊岡で創った『S 高原から』を東京に持っていきます。4月にこまばアゴラ劇場で、1ヶ月間ロングラン上演します。2022年度の支援会員特典でご観劇いただけます。お近くの方はこちらも是非ご検討ください。

青年団第92回公演『S 高原から』  
於 こまばアゴラ劇場  
2022年4月1日（金）～24日（日）